



白門板橋

2013. 12. 25 VOL.41

編集
発行

中央大学学員会 東京板橋区支部
〒173-0035 東京都板橋区大谷口1-39-2 TEL03-3956-9054

創立25周年記念誌



中央大学学員会 東京板橋区支部は
1989年（平成1年）6月4日に第1回定時総会・懇親会を
板橋区立文化会館で開き
7月1日には『白門板橋』創刊号を発行しました。
創立から25年を迎え
2013年（平成25年）6月22日に第25回定時総会・記念式典を
池袋東武バンケットホールで開催し、その絆を深めました。
ここに更なる発展を願い
『白門板橋』創立25周年記念誌をお届けいたします。

板橋白門会
創立 25 周年記念誌

目 次

(『白門板橋』ロゴの題字は、
元総長 高木友之助先生の筆)

集合写真			1
目次			2
創立 25 周年を祝して	支部長	石塚輝雄	3
創立 25 周年記念事業を終えて	実行副委員長	平山惟美	4
板橋区支部会員との絆を更に深めよう	監事	中路義雄	5
創立 25 周年に思うこと	監事	栗原三郎	6
熱血放談 『板橋白門会の展望』を語る	有志座談会		7～11
25 周年記念式典／落語（春風亭朝也氏）・記念講演（永井和之教授）			12
同上／石塚支部長・来賓挨拶（大木田守学员会本部副会長・坂本健区長）			13
同上／来賓紹介・記念祝賀会・応援団の演技			14
同上／スナップ写真・TOPICS①			15
協賛金協力者名簿・TOPICS②			16
記念品を選ぶまで（中三川孝幸）・手土産に「御目出糖」			17
25 にまつわる話	平山惟美		18～19
秋の旅行の記録	池田亘利		20
平成 21 年秋の紀行文（『白門板橋』再掲載）	前田昌則		21
平成 22 年秋の紀行文（同上）	三宅正代		22
年表①（平成 11 年度～ 13 年度）（1999. 4. 1～2002. 3. 31）			23
年表②（平成 14 年度～ 16 年度）（2002. 4. 1～2005. 3. 31）			24
年表③（平成 17 年度～ 19 年度）（2005. 4. 1～2008. 3. 31）			25
年表④（平成 20 年度～ 22 年度）（2008. 4. 1～2011. 3. 31）			26
年表⑤（平成 23 年度～ 25 年度）（2011. 4. 1～2014. 3. 31）			27
創立 25 周年記念事業実行委員の名簿・編集後記			28

板橋白門会 創立25周年を祝して

支部長 石塚輝雄



支部創立から25年が経過

板橋白門会の創立25周年、誠におめでとうございます。

その創立は、昭和63年の準備期間を経て、平成元年に設立されましたが、当時私は61歳で板橋区の助役をしておりました。

その2年後に私は板橋区長になりましたから、私の区長時代と板橋白門会とがちょうど重なり、あれから25年が経過したのかと思うと感慨深いものがございます。

ご存じのとおり、母校中央大学の地域支部は、母校をささえる礎として、さまざまな活動を行っておりますが、これらの活動はひとえに母校の発展と支部

員の幸せを願って行われるものです。

そのために多くの活動を支えてきた、歴代の支部長、役員をはじめ支部の皆様のご理解とご努力に対し改めて感謝申し上げます。

創立25周年式典の開催

さてこの度、本年6月22日に実施されました第25回定時総会並びに創立25周年記念式典にご出席のご来賓、および支部の皆様には、ご多忙のところご出席をいただき誠にありがとうございました。

当日の創立25周年記念式典においては、母校の前総長・学長をなされた、永井和之先生の記念講演をはじめ、本学学会の大木田守副会長、坂本健区長からは祝辞をいただきました。

また学員の落語家・春風亭朝也さんの落語や本城亜利架応援団長ほか応援団員の演武は、記念式典を盛り上げ、式典の思い出を深く印象づけました。

記念祝賀会は、学会本部顧問の長田繁先生の乾杯後歓談と

なり、和やかな雰囲気の中に祝賀ムードに包まれました。

更なる発展の第一歩

思うに、周年行事は、先輩の皆様が学員相互の親睦と限りない中央大学の発展に尽力して、25周年を迎えたのですから、板橋区支部はこれら先輩の築かれた歴史と伝統を引き継ぎ、この記念式典を機会に更なる発展への第一歩を力強く踏み出す誓いの日としなければならぬと思います。

支部活動の充実

総会の議題にもありましたとおり、支部ではこれからも種々の親睦会、同好会、広報活動、会員増強活動、その他の諸活動が計画されております。

特に支部会員の増強活動は、支部活性化の一番の重要課題です。

これからも、右に挙げた行事をとおして支部の事業を充実、発展させていくとともに、母校と支部の更なる絆を強めるべく、

さまざまな施策に取り組んでまいりますので、当支部の皆様には良き仲間として協力をお願いいたします。

そのためにも当支部が組織的にも充実し、母校と連絡を取りながら、活発な活動を実施されることを心から希望いたします。

皆様のご協力に感謝

式典当日、各区支部長、本役員、永井前総長には最後までお付き合いをいただき、支部員一同は感謝の言葉を申し上げます。

また、最後になりましたが、この度の記念式典の開催に際して、平山惟美実行副委員長をはじめとする実行委員の皆様が、数々の準備をしてまいりました。私もそれらの準備には顔を出し、励ましてまいりましたが、このような充実した式典を開くことができ、感謝しております。

結びに、中央大学と東京板橋区支部のますますの発展と支部員皆様のご健康をお祈りし、創立25周年の祝辞とさせていただきます。

支部創立25周年 記念事業を終えて

記念事業実行委員会
副委員長 平山惟美



四半世紀の重味

5年、10年、15年等々、5年の倍数年を節目と数えるから、25年という数字は大きな節目となり、結婚生活においても「銀婚式」として記念祝賀の式を行なうカップルもある。一時成田離婚という馬鹿げた流行語があったが、夫婦生活でも25年間お互いに努力して家庭を築いた時には、その絆も強固なものとなり、祝賀するに値すると思う。

区切られたこの期間を四半世紀と言い換えてみると、経過した時間の重味さえ感じられる。馬齢を重ねただけとへりくだることもない様に思う。

個人にとっては、人生の節目を

どのように受け止めても、人それぞれ自由であるが・・・。

団体としての支部は予算書の収入の部に、協賛金の科目で75万円の数字を計上しているではないか。これは明らかに記念事業を行なう計画であるが、執行部役員が一部改選されたものの、新執行部の役員にも大きな課題が申し送られたという意識は薄かったように思う。それが証拠に暑気払いを兼ねた役員会の席でも議題にとり上げることもなく、事業年度が半分を切っても何も準備をしてない現状に正直言つて慌てたものである。

協賛金に勝負賭ける

待っている、ことは進まないし誰もやってくれない。

一般企業と異なり、職務権限など明確な定めのない支部では、アクションを起こすことに戸惑いながら記念事業の準備計画書を作り臨時役員会の開催にこぎつけ、①記念事業実行委員会の組織づくりを最重要項目に、②会場の選定③開催日時④記念品の可否⑤記念講演開催の可否⑥協賛金の基準等、重要項目を一気に諮って承認をとりつけた。

過去に執り行った10周年記念

事業の記憶をたどりながら、個々の準備は進められ、マニュアルや記録はなくても、蓄積されたノウハウで対処しようと思腹を決めた。勝負は、協賛金の集まり具合と読んだ。

3月15日発行した会報『白門板橋』で広報したことが効を奏したのか、3月末で40万5千円を入金、新年度に入って32万9千円が入金され、最終的には74万3千円が寄せられた。これは20周年記念事業の時の金額91万5千円には及ばなかったが、有難いことで、一般会計からの組み入れがなくても何とか賄える見通しがつき、内心胸をなでおろしたものである。

怪我の功名

記念事業の講演も、希望した講師の招聘が不調に終わったものの、栗原監事の尽力で前総長の永井和之教授の格調高い講演を聴くことができたのは幸運だった。

松島副支部長の人脈で白門落研OBの春風亭朝也さんの落語をアトラクションにセットできたのもラッキーで、硬軟織りまぜたバラエティーに富んだ催事にできたこ

とを有難いと思つた。

シナリオにないフィナーレでは母校の応援団から駆けつけてくれた本城亜利架団長に景気の良いエールを受け手締めとなった。

結果オーライとはいえ、手順を無視した乱暴な実行委員会の所行には、寛大な心で何卒ご容赦下さるようお願い致します。

* * *

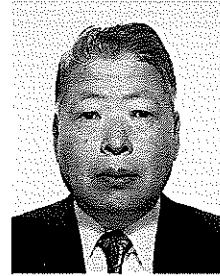
記念事業を終えて今思うことは先輩の方々が創設した東京板橋区支部を引継いだ我々は、いま漸やく支部の基盤整備が終わり、資産を次世代に引継ぐべき時季が到来したと考えている。「伝統」と言えるようなものでよい。

25年の歴史の中で培ったもの、伝え送ったもの——風習・制度・信仰・学問・芸術等——。遊びごとでもよい。いつ終わるとも知れない延々と続く同好会の活動など、ねばり強い頑張りの精神こそが次世代に伝えられていくならば、それが「伝統」という遺産になつて引継がれることだろう。

そして、それが他の支部にはない東京板橋区支部固有のものであれば申し分ない。

板橋区支部会員との絆を
更に深めよう

監事 中路義雄



支部とのかかわり

板橋白門会創立25周年おめでとうございます。

私が板橋区支部とのかかわりを持ったのは、昭和62年、毎日新聞から、中央大学の特集をするので広告を出して欲しいVといわれ、賛同して卒年・住所・氏名が掲載されたのを、当時、支部設立委員だった矢吹尚武さんがご覧になり、お電話があつて「12月に色川ビルで発起人会があるから出て欲しい」とのお誘いを受け出席しました。その後しばらくは、支部にはご無沙汰いたしました。

私は、平成7年に勤めていた会社の定年を迎え、それを機に「そろそろ支部の行事に出席するよう」と千葉氏からいわれ、第7回支部総会（支部長は、濱 巖氏）から積極的に出席するように心掛けたのです。

仲良くなるための最初の旅行会は、平成6年の伊香保・榛名山巡りでしたが、平成8年の牛久大仏・シャトーとか、平成9年の屋形船による観桜会なども、印象深く心に残っています。

地域支部は年次支部とは異なり、同じ仲良し会でも、同区のみで仲良さの度合いが濃く、フレンドリーに接していただき、感謝しています。

他支部にはない制度

わが支部は、平成10年から「支部ブロック制度」を制定しましたが、これは他支部にはない、すばらしい制度だと思います。

各ブロックが地域ごとに団結し、活性化して、会の基本行事に当たる制度です。

今では春の観桜会、忘年会など回り持ちで該当ブロックが主催し

支部全体の親睦を深めています。利点として、組織化されて地域に密着し団結心を生んでいます。

高島平の「イヴの会」

平成13年には、地域支部を更に地域化した高島平の「イヴの会」という非公式の会が発足しました。

先に記述しました千葉氏が、平成12年に他界された後、高島平地で、常時集まる所を作ろうとの話が持ち上がり、ブロック制を更に地域化した形ですが、近藤正氏（昭和45年卒）が発案して、新高島平駅前のお喫茶店イヴに「イヴの会」という名称の会を作りました。

午後2時から3時半頃までの間ならば、中大OBの誰かには会えることになっています。話題は、中大の近況、各人の現況、政治や経済の話など、男性による井戸端会議というわけです。ここでは仲間だけの焼き肉屋での暑気払いとか忘年会もあります。

この会は規約などない気楽な会で、中大の方ならどなたでも受け入れています。私も友人は大勢いますが、その内80%は中大同窓の方々のお付き合いなのです。

思い出の人々

イヴの会での思い出の人々として、まず佐藤幹夫氏が心に浮かびます。夏にはよく八ヶ岳カントリークラブに避暑を兼ねてゴルフに出かけ、途中、小諸・上田・別所温泉と観光地を回り、とても楽しいゴルフでした。

次に竹田和夫氏がいます。竹田氏は同級のよしみで、何でも相談して、貴重な意見を述べていただきました。

それからお酒の好きだった金子益朗氏。いつもここにこして、カオケが上手で、ちよっと一杯といつてはたびたび一緒に飲み、思い出深いものがあります。

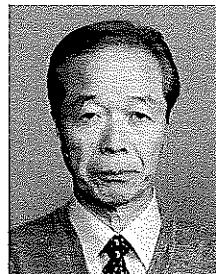
今では佐藤幹夫氏も竹田和夫氏も金子益朗氏も、鬼籍の人になられ寂しい気持ちです。

板橋区支部はこれから30年・40年と年を重ねていきますが、笑顔で仲良く、健康に留意して更なる発展に寄与いたしましょう。

私個人は、それだけ年をとっていくわけですから、心のどこかに寂しいものがあり、今は「めでたくも有り、めでたくも無し」という複雑な心境です。

創立25周年に思うこと

監事 栗原三郎



学員会支部か白門会かと激しい論争で始まった昭和63年2月の支部結成準備会から25年が経ちました。

誠に恥ずかしいことですが、大学に職員として勤務していながら、あの時の私には何が始まったのか全く理解できませんでした。

しばらくして、それは、当時の支部の設立条件には、新規の学員会会員(3万円の終身会費納入者)を100人集めること、大学の寄付の要請に応えていかなければならぬということというハードルがあったために、支部設立を躊躇する方と積極的に進めようとする方の激しい対立だったということがわかりました。

後日、色川邸で話し合いが行われ支部設立準備を進めることになったようですが、そんな折に幸運にも既存の学員会会員(会費納

入済みの方)を充当できるという本部の方針変更があったため、急きよ支部の設立が実現したわけですが、色川邸で大変盛り上がったことを記憶しています。

* * *

さて、私も40年余りの大学の職員生活を終え、13年が経過しました。板橋区支部には、在職中から係わりをもたせていただきましたが、大学においてもたくさんの学員あるいは学員会との係わりを体験させていただきました。

私は在職中、中大ではなぜ学員と呼ぶのかとずっと疑問に思っておりましたが、最後まで確かめることができませんでした。たぶんそうした記述が残ってなかったからだと思います。

中央大学学報には、「東京法学院大学から中央大学に変わった時、院友会から学員会になった」とあることや、司馬遼太郎の『街道をゆく』のなかに、英吉利法律学校卒業の長谷川如是閑が、「中大では卒業生を学員と呼ぶ」との記述は残っているものの、なぜ「学員」なのかを記したものは見つかりませんでした。

* * *

さて、学員は、戦後の新制大学

の発足と私立学校法の制定により、大学の管理運営に参画することになりましたが、現在の中大では、大学・高校等を管理運営する理事会と学校法人の最高議決機関と位置づけている評議員会に、教職員と約同数の学員代表が参加して役割を担っています。

とりわけ学員会の主力とされる法曹界、南甲倶楽部、国会白門会、学員体育会と伝統のある地方支部からは改選の都度、決まった人数の代表が理事・監事・評議員等の役員に就任してきました。

こうして大学も外部からの意見を取り入れることにより、多くの社会的責任を果たしてきたといえると思います。

ただ、これまでに一度、この教職員と学員のバランスがくずれたことがありました。

私も運営のスタッフを務めていたころでしたが、学員の有力者達により、評議員会内に常置委員会を設置して、大学の予算や総長に関する問題などを一方的に検討しようとしたことでした。

さらにこの委員会が学生会館の管理についても問題にしようとしたことで学生・教授会と対立、全学ストライキに突入し、大混乱を

招きましたが、結局このことが引き金となり、後の学生による大紛争にもなるわけですが、これは学内と学員のバランスを欠いた悪い例となったわけです。

現在は、このことが教訓となつて生かされているものと思っております。

* * *

また、大学の知名度をあげる目的として学員の社会での活動について広報誌で名前を挙げて伝えていますが、なかでも思い出に残るのは俳優の渥美清氏のことでした。当時は、千秋実氏や仲谷昇氏などとともに渥美氏のことも掲載していました。渥美氏については、予科、専門部、大学などを調べても、入学、卒業とも本名での記録が発見できませんでした。

後日、広報誌の担当がインタビューを試みましたが、全て拒否されたことでも、中大の広報誌が間違つて掲載していたようです。

このように学員は、大学にとつて大変貴重な存在であつて、これからも学員として、また職員OBとしても、この関係を注意深く見守っていきたいと考えています。

最後に東京板橋区支部の更なる発展を祈り終わりたいと思います。

熱血放談 ● ● ●

『板橋白門会の展望』を語る

東京板橋区支部は、創立から25年が経過しました。一口に25年とはいえ、四半世紀にもわたります。ここまで当支部が発展したのも、諸先輩の方々のたゆまぬ努力のおかげです。

今日は一部有志の皆様が集まっていたいただき、当支部の現状と将来を遠慮なく語ってもらいました。

(編集部)

司会「当支部は、今年、6月22日に創立25周年記念式典を無事開催することが出来ました。

この25年間を振り返り、次の世代に何を残したらよいかを話し合っただけという感じが、この放談会の目的ですので、自由にしゃべってください。

まず、当支部の地域特性を考えてみたい」

●「板橋には中山道など古くからの街道や仲宿などの宿場町があった。ただ名所、旧跡が以外と少ない。派手さがなく、しぶい感じがします」

●「中山道は、江戸時代五街道の一つで、板橋もその宿場町として古くから有名ですが、名所や旧跡という観点から考えるとパツとしない」

●「マイナーの名所や旧跡ならたくさんあります」

●「松月院前にある、えのき(榎)は、三遊亭園朝の『怪談乳房榎』に書かれている赤塚村の仇討の場所、仇討は創作ですが、榎そのものは現存して名所です」

●「しぶいという点では、もともとと中大はしぶい感じの大学ですよ」

■地場産業は精密機械

司会「地場産業はどうだろうか。私が現役の頃、上場企業が12社あった」

●「板橋には、製本や印刷工場が多く、中小企業が多いように思う」

●「トパソコンという一部上場の企業で、かつてはカメラメーカーとして有名でした。現在は眼科用の

医療光学機器を製造していますね」

●「平成26年2月に板橋区で光学設計・製造に関わる国際会議が開催されます。

光学・精密機器産業は板橋の主要産業であり、国際会議まで開かれるところから考えると、その方面では板橋の企業は、名が知られているのではないだろうか」

司会「板橋には、中心になる街がないようですが・・・」

●「確かにない。有名なのは、大山のハッピーロードぐらいでしょうか」

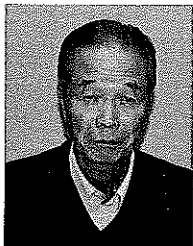
●「地名の由来となった石神井川に架かるA板橋Vのある仲宿の通りは、距離は短いのですが、江戸時代の旧中山道そのものであり、由緒ある商店街です」



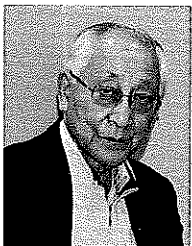
▲桜の名所 石神井川岸の碑
(碑の筆・石塚輝雄 前区長)
(写真・伊藤)



▲池田巨利
(昭41法卒)
支部幹事長



▲栗原三郎
(昭35商卒)
支部監事



▲大森 守
(昭34法卒)
支部常任幹事



▲平山惟美
(昭33経卒)
支部副支部長

日時：2013年11月5日
会場：ルノール巣鴨・会議室
司会：平山惟美
出席者：大森 守 栗原三郎
池田巨利 大野正浩
深山 宏 徳永勝彦
中三川孝幸・川崎力男
(記録) 伊藤 潤

■盛り沢山の事業

司会「支部の事業について考えをお聞かせ下さい」

●「当支部は行事がとても多い。新年会から始まって、どれに出て、どれを休もうかと思案するほどです。年中支部の仲間と会っているような気がしますネ」

●「某支部は、年間の予算規模も少なく、カラオケと納涼会がある程度です」

●「会員の構成にもよるのではないのでしょうか」

会員の勤務先が板橋区の者と職住とも板橋区の会員とでは、おのずから支部の行事の内容も違ってくるのではないのでしょうか」

司会「当支部は同好会も盛んですか、同好会について、どう思いますか」

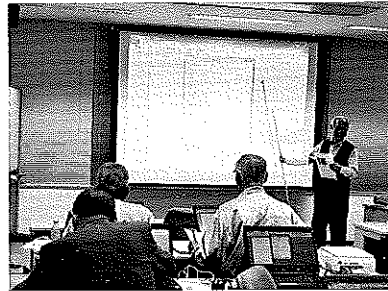
●「囲碁同好会は、愚直に月例会を開いていますネ」

●「ゴルフ同好会は、競技がよく飽きないものだと思います」

●「ゴルフが唯一の趣味という人は、大勢いますよ」

●「カラオケ同好会もこまめによく続いていきますから、固定ファンがいるのですね」

●「パソコン同好会は、講師の教え方が上手なので、会員にとっておおいにパソコン技術が上達しています」



▲パソコン同好会における佐藤道則会長の講義

●「同好会ではありませんが、中大レガッタ競技など、会員の応援も多く、まめだなアと思います」

司会「支部をまとめる支部長の人柄について、考えてみたいのですが、いかがですか」

●「今までの支部長は、どなたも温厚で、四代続いて人柄がおだやかで、まじめな方々でした」

●「そういった人柄が、支部の運営に反映していると思われるのですが、逆に温厚でない支部長という方が他支部にいるかどうか、わかりません」(笑い)

●「支部長ではありませんが、当

支部の役員の方には、どちらかというところサムライ業などの自由業の人が多し。このことは、支部の特長かもしれない」

(注・司法書士とか税理士とか弁護士は、最後に士がつくので、サムライと呼ばれる)

●「当支部では、これまで都議会議員や区議会議員を多く輩出していて、支部の役員もしています」

●「皆さん人格者ですよ」

■広報活動

司会「会報についてですが、他の支部はどれぐらい出しているのだろうか」

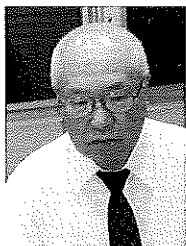
●「板橋支部は多いですよ。これまでに40号まで出しましたが、これはすごいことです」

●「創立して10年目に『板橋区支部10年のあゆみ』という216ページにわたる記念誌を発行しましたが、これは大著です」

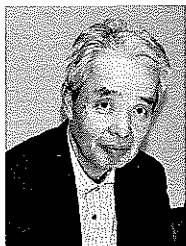
●「あの頃は、支部ができて皆さん張り切っていたし、編集委員も50代、60代前半で若かった。今は老骨にむちうって頑張っている」

●「会報が無くなると寂しい」

●「会報ではありませんが、講演



▲伊藤 潤
(昭39商卒)
支部常任幹事



▲川崎力男
(昭51理卒)
支部副幹事長



▲中三川孝幸
(昭48法卒)
支部常任幹事



▲徳永勝彦
(昭42理卒)
支部事務次長



▲深山 宏
(昭41商卒)
支部副支部長



▲大野正浩
(昭41文卒)
支部事務局長

会も支部があるからできるのであ
って、講演会は支部そのものを進
化させる大切な行事です」

●「当支部のホームページもWEB上
で展開しているのですから、広報
活動は充実しています」



▲板橋白門会のホームページ
(www.hakumon-itabashi.net/)

司会「板橋支部には資産も157万円
しかなく、なにか無形の資産とい
うものはないでしょうか」

●「このような大学OB会の地域
支部などに、ほんらい資産などが
あるのでしょうか」

●「無形文化ということ考えた
場合、板橋区には「板橋区文化団
体連合会」という団体があり、そ
の中の八書道連盟Vには石塚支部
長も入っていて、板橋区の書道展
にいつも出品しています」

この団体は全部で26組織によ
り構成されていますが、多くの会

員が入会して、地域で活躍すると
いいですね」

■喫茶店文化

司会「文化といえるかどうかはわ
かりませんが、ここで喫茶店「イ
ヴ」における喫茶店文化について
話し合ってみたいと思います」

●「喫茶店「イヴの会」の出来た
いわれ(理由)については、いろ
いろの説があり、それはそれで良
いのだけれど、最初は千葉喜代則
さん(故人)という人がいて、周
囲に電話を掛けては仲間を増やし
てきた」

●「同じ頃、某支部では、居酒屋
の2階に定期的に集まって、酒を
飲みながら談笑していた。

それなら当支部でも・・・とい
うことで、土曜日に喫茶店イヴに
集まり、こちらはコーヒーを飲み
ながら雑談することにした」

●「千葉さんは根回しが上手な人
で、ハート(心)がこもっていた」

●「千葉さんに誘われて「イヴの
会」に入った人はとても多い」

●「私は、近藤正さんに誘われて
入った」

●「秋元平馬さん(故人)や栗原
泰房さんもよく来て下さった」

●「新高島平の喫茶店での「イヴ
の会」は、よく続いていると思い
ますよ」

●「これが続く理由のひとつに、
喫茶店のママさんが気さくな方で、
とても面倒見が良いからです」

●「イヴのコーヒー代は400円、こ
れで午後2時から3時半頃まで、
おおむね10人程度が集まります」

●「旅行に行った人とか、お酒を
もらった人などが、お菓子やお酒
の持ち込みをして、皆で飲んだ。

また、小日向支部長(当時)も
「イヴの会」の常連で、たびたび
ビールをご馳走してくれた」

●「ここでは夏に暑気払い、冬に
は忘年会をした。

板橋区支部では、最初の頃、新
年会はあったが、忘年会という行
事はなかった。「イヴの会」で忘年
会をしていたので、それなら支部
単位での忘年会も開催しようとい
うことになった」

●「コーヒーを飲みながらダベル
のは、コミュニケーションの原点
ですよ」

●「永年続いているのは、伝統的
文化です」

司会「伝統とはいったい何だろう
かと考えさせられる。
長い歴史の中で培い、伝えてき

た習慣・制度・思想などだが、し
かし長ければよいと言えるのかど
うか。

巨人軍は80年近い歴史がある
のに、誕生から10年にも満たない
楽天球団に負けてしまった」

●「箱根駅伝でも同じことがいえ
ますよ。伝統があれば、シード権
が自然に発生するわけではありま
せんから」

●「伝統については、応援歌にま
で歌われておりますよ」

●「板橋支部は、仲間意識が非常
に強い。幹事長以下執行部が良く
まとめている。(ヨイシヨ)

今は体調をこわしているが、三
宅正代さんの功績も大きい。

三宅さんは二次会にもよく付き
合ってくれる」

●「小野田元さんや栗原泰房さん
等、長老の方も二次会に付き合っ
てくれて、みな優しい」

司会「この度の25周年記念の協賛
金についてはどうですか」

●「母校125周年記念の時の当支部
の協賛金の額にはとても及ばない
が、それでも多くの会員が協力し
てくれた」

●「板橋区支部の会員数は、決し
て多くないが、それなりの協力は
いただいている」

●「新宿などの都心に支部のある地域では、勤め人が会員になって

いるが、居住地は別にあり、勤め先の支部と居住区の支部の両方の支部を掛け持ちで入会しているOBが多いのではないか」

●「板橋区とか中野区などは、そこに住んでいる会員が多い」

●「25周年の記念品を式典の当日に欠席のため渡せなかった会員の家を訪ねて、留守をしていた奥様に渡すと、ていねいにお礼を言われた」

●「鬼籍に入った会員の遺族から協賛金をいただいたケースもある」

●「ホームカミングデーや旅行の中止についてはどうですか。結束が乱れつつある・・・」

●「ホームカミングデーは、台風の接近で大学当局が中止を決めた。しかし当日は晴れてしまった」

●「ホームカミングデーの準備は、前日から行わないと実施できない。前日に雨や風が強いと、広場にテントなどが張れない」

●「旅行は24年間休みなく続いたので、中止と聞いてがっかりした」

●「昨年の駅伝でシード権が取れなかった時と同じようなショックだった」

●「どのよう旅行が良いのでしようか」

●「マンネリになっている」

●「3万円は高い。モット安い旅行のほうが良い」

●「日帰りの旅行はどうであろうか。日帰りならば、若い人も参加できるのではないか」

●「昔、当支部では茨城県の牛久シャトーに行ったことがある。あの時は花見旅行でバスによる日帰り旅行だった」

●「板橋区観光協会(会員制)では、日帰りの旅行を実施している。参加は40人定員で、希望者が多くてキャンセル待ちの状況である。年齢は50代から70代が多い」

●「観桜会のような感じで、日帰り旅行なら可能かもしれない。例えば秩父方面などに、ハイキングを兼ねて行けないだろうか」

●「日帰り旅行にしても、今まで行ったことのないところだと行くのではないか」

●「家族参加の旅行はどうか」

●「それには反対だ。家族も参加するなど、冗談じゃない」(笑い)

●「毎年秋に実施してきたが、秋は他の団体の旅行と重なる。むしろ夏の納涼会のようなもの

のほうが良い」

●「旅行が同じ時期に重なると、年金生活者には辛い。高齢化が進んで、足が重くなった」

●「私は三鷹に住んでいますが三鷹には大宰治の遺産が多くあって、人々を呼び込んでいます。そういった文化的な遺産は、板橋にはないでしょうか」

●「残念ながら、そういった遺産は板橋にはありませんが、区立美術館はかなり有名です。夏には「イタリア・ポロニーヤ国際絵本原画展」が開かれましたし、秋には「佐藤太清・生誕100年記念展」が開催されました」

●「蓮根にある「植村冒険館」も名が知られています」

■会員増強は永遠の課題

●「若い人に入会してもらうには、どうすれば良いのでしょうか」

●「10年間にわたり、若い会員を入れたいと努力してきたが、うまくいっていない」

●「ブロック長も、若い人の方が良いのではないか」

●「若い人ばかりでは判断ができないので、年配者もまぜないと支部の運営はうまくいかない」

●「若い人を知っていたら、ひとりずつ入会をすすめるしか方法がないのではないか」

●「以前、会員募集をした際、平成の卒業生は対象にできなかった。働き盛りでは、支部への参加は無理だろうとの判断だった」

●「自分が入会した時は、40代であった。40代が会員に多くいないと、やがて会は消滅してしまう」

●「そういう観点から考えると、年次支部の古い支部はやがては消滅することになる。」

●「地域支部は、新人がきちつと入ってくれば、いつまでも続く」



▲区民まつりの当支部コーナー

●「区民まつりの時は、中大の旗は、よく目立った。受付には、年配のベテランが多くいて頑張っていたが、若い会員がいればもっと入りやすいのではないか」

●「そのとおりだ。小宮さんのような若い人に受付をやってもらえば、若いOBが寄ってくるのではないか」(笑い)

●「お手伝いいただいた諸先輩には本当に感謝しています。ただ、このテーマがいかにして若い会員を集めるかだから・・・」

●「昨年の区民まつりでは、その場で入会してもらった。今年資料を渡して、中に申込書を入れた。10人以上のOBが資料を持って行ったが、何故か現時点でひとりも入会していない」

●「PRになったのだから、良いではないか」

●「今年の区民まつりは、1日目の午後しか活動ができなかった。2日目は朝から雨が降り、午後には閉鎖したのは惜しかった。もっと多くの中大OBに資料を配りたかったのだが・・・」

●「手伝いをする会員には、弁当代ぐらいいは出さないと、若い人は出て来ない」

●「女性が受付にいれば、かなりやわらかくなるのだが・・・」

●「板橋区役所もあれだけ大きな組織なのだから、中大OBはもっと多くいると思う。しかし、ひとりずつ探して、入会を勧めるのは無理がある」

●「中大を卒業して就職した人でも、働いているOBにとっては、支部に関心はあっても、なかなか参加する時間が取れない」

●「そういう点では、ホームページの効果は大きい。支部の行事に参加できなくてもホームページはどこでも閲覧できるし、若い人も興味を持っているので、ホームページを充実させることは大切だと思う」

●「従来、当支部のホームページは、前田昌則さんが主要部分の文章を作り、サーバにアップロードしてきました。しかし、体調をくずして、現在静養中です。一日も早い回復を願っています。その後は、佐藤道則パソコン同好会会長が作成し、アップロードしています」

●「小宮さんが力を入れているボートのようなものももっと多くあれば楽しいし、若い会員も集まるのではないでしょうか」

●「ボート競技をする会員達は、皆、生き生きしている」



▲ボート競技の選手たち

●「何か新しいことをしないと、若い会員は寄ってこないのではな

いか。30代、40代、50代の働き盛りのOBが関心を寄せることとは、一体なんだろう。それを見つけていることが重要だと思う」

●「現在、四つの同好会は、よくがんばっていると思いますよ」

●「大相撲応援観戦は、以前のよ

うに中大出身の力士が3人もいれば、応援に行くのですが、現在は

●「豪風ただひとりです」
●「年配者が多い中で、当支部はよくがんばっていると思います。これだけ活動している地域支部は他にないと思う」
●「A長幼の序V」という言葉があります。
今の支部を形作ったのは、現在活躍中の者ではなく、今では長老と呼ばれる先輩の方々であり、未来を託するのは後輩達です。
医学の進歩によって、寿命がどんどん延びて、70代、80代でも元気な老人が増えていきます。
●若い会員の獲得は課題ですが、老いてますます元気な会員を受け入れるということも、重要な地域支部の務めだと思います」

＊

司会「時間もなくなってきました。当支部がどのような環境の地域にあるのか、その地域の中で、どのように行動しなければならぬかといったことを話し合ってきました。」

地域に密着した、より明るく、元気な支部になって欲しいと心から願うばかりです」

(終り)

【定時総会と創立25周年記念式典・祝賀会】

日時 2013年6月22日(土)
会場 池袋 東武バケットホール
開始 午後4時
出席者 来賓13人・講師1人・
落語家1人・支部員59人
(合計) 74人

【第1部】第25回定時総会

●定時総会

総会は、石塚支部長を議長に選任し、5議案が審議され、原案どおり可決承認されました。

定時総会については『白門板橋』第40号に詳細に掲載してありますので、そちらをご覧ください。

●落語独演

紹介(司会者) 松島道昌

松島さんの紹介に続いて春風亭朝也さんが、控室から登場。その時点から落語の雰囲気会場に立ちこめます。

春風亭朝也さんは、まず落語の「落ち」について『この「落ち」を聞き洩らすと落語の面白さが出てきません』と説明。

落語は、朝也さんお得意の古典

落語『片棒』。舞台は江戸時代、けちなだんな(吝嗇家)と3人の息子(金之助・銀之助・銅之助)の物語。身ぶり、手ぶり、更には上半身を動かしての大熱演。実に見事な演技で大好評でした。



▲春風亭朝也さん

(落語は、最初、第2部での予定でしたが、時間の都合により第1部で実演)

【第2部】記念講演

紹介(司会者) 池田亘利

講師 中央大学教授

永井和之先生(前総長・学長)

演題 『物語と法』

講演内容

〈一休さんが対応した法〉

「このはしをわたるべからず」との立て札を見た一休さんは、「この橋を渡るな」とは解釈せず、「この端を渡るべからず」と読んで、橋

の真ん中を渡った。立て札の趣旨は何だったのであるかというところが問題となります。

1924年に起きた有名な狸猪事件という、狩猟法違反事件があります。狸と猪(むじな)は、同じ動物なのですが、地方によって呼び方が違います。狸は捕獲してはいけないが、猪ならよいと思つて猪を捕獲した猟師が逮捕された事件です。

この判決は、「事実の錯誤として、故意を阻却するので無罪」となつた有名な事件です。



▲永井和之教授

〈大岡越前の「三方一両損」〉

3両の入った財布を拾った町人とそれを落とした町人との争いで、それを裁いた大岡越前は、自ら1両を出して4両とし、ふたりに2両ずつ与え、3者1両ずつの損と

しかし、判決はいずれにおいても適用されるべきで、このような判例は、今では認められません。(シェークスピアの「ヴェニスの商人」)

法学者に扮したポーシャにより非道の金貸しシャイロックが要求する契約どおりのアントーニオの肉1ポンドの切り取りは認めるが血の1滴たりとも流させぬという名判決によって、アントーニオは救われるという内容です。

〈森陽外の「高瀬舟」〉
弟殺しの罪人・喜助と高瀬舟に乘せて護送する町奉行所の庄兵衛との会話がその内容です。

明治の文豪の小説ですが、安楽死を殺人ととらえるかどうかという深刻な問題を提起しています。

〈芥川龍之介の「羅生門」〉
平安時代、天災地変が打ち続いてきた頃、下人は食べるものもなく、羅生門の下にいた。門の上に人の気配がしたのであがつていくと老婆が若い女の遺体から髪を引

き抜いていた。下人は老婆から着物奪い、闇の中に姿を消した。

これは緊急避難と解釈できるものではないませんが、妙につきまとうものがあります。

(講演終了)

「第3部 記念式典」

司会 松島道昌

東京板橋区支部

●石塚輝雄 支部長の挨拶

「このような25周年記念式典を開くことができたのは、皆様の努力の結果であります」と話され、いつものユーモアあふれる話術で挨拶されました。

「他支部のご来客に感謝を申し上げ」、また「日本大学と中央大学の友好関係に感謝して」坂本区長（注・坂本区長は、日本大学大学院卒）を紹介され、最後に「今日の記念日は将来の発展への誓いの日であり、これからはもうっしようにけんめいがんばります」と述べて、挨拶を終えました。

（当号の3ページに石塚支部長の「創立25周年記念を祝して」という文章を掲載しておりますのでご覧下さい）

来賓挨拶

●大木田 守 学員会本部副会長の挨拶

富士山が世界遺産に登録されました。この会場からは富士山が見え、良い会場を選びました。

私は、つね日ごろから「山は富士・花は桜・大学は中央」と言い続けております。

中央大学学員会は、現在、53万人の会員を抱えておりますが、ここにおられる杉並区支部の高嶋民雄支部長も、この度、学員会本部の副会長になりました。



▲大木田 守 学員会本部副会長

京都の友禅染めは、桜色を染めるのがむづかしいといわれています。それは花の盛りの色を染めるのではなく、盛り以前の桜を染める、それを桜の木の色で見極めるのだそうです。

中大においても、根っこの部分が大切なのです。卒業生も世界に誇る中大として、力を発揮して欲しいものです。

中大は125年の歴史を持つております。長い歴史の中では、さまざまなことが起こりますが、学員がそれぞれの経験を生かして53万人の学員の力で問題を乗り切っていたのだと思います。

来賓挨拶

●坂本 健 板橋区長の挨拶

先ほどご紹介いただきました「日本大学と中央大学の友好」に力を注いでいる坂本です。



▲坂本 健 板橋区長

本日は「日本大学と中央大学」ではなくて「中央大学と日本大学」ということになりましたか。

ここにおられる大木田先生とは東京都議会において、共に仕事をさせていただきました。大きな木を守るという意味でもがんばって

欲しいと思います。

昨年の区民まつりにおいては、日大も中大も会場の抽選に外れてしまい別の一区画を半分ずつ使つて区民まつりを行いました。

（昨年、日大では会場の抽選に外れ、日大OBの所有する土地を借りて区民まつりを行ったが、中大も抽選に外れたことを知り、その土地の半分を中大に貸してくださった）

今年はいくじ運の強い人にくじを引いてもらって、区民まつりを更に盛り上げていただきたいと思います。

石塚前区長は、これまでに2冊も本を出しましたが、中大の校友の人々がそれをささえていることを理解しました。私の区政もささえてくださっております。

「中央大学と日本大学の友好」ということを前面に出して、お祝いという言葉といたします。

*

●祝電の披露

福原学長および足立理事長からの祝電が、司会者により読み上げられました。

●来賓の紹介

来賓の方々が、それぞれ一言ずつご挨拶。

学員会本部 大木田守副会長

板橋区 坂本 健区長

学員会本部 長田 繁顧問

練馬区支部 生田直義副支部長

江戸川区支部 北村博昭幹事長

中野区支部 松橋 正支部長

目黒区支部 岡田匡令支部長

杉並区支部 高嶋民雄支部長

文京区支部 中川浩治支部長

世田谷区支部 増田信之幹事長

新宿区支部 平山久子副支部長

新宿区支部 吉岡三男幹事長

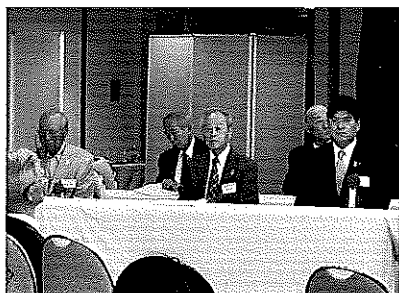
江東区支部 中村浩紹支部長

港区支部 小山浩伸幹事長

(注・各支部の正式名称は、上に東京が入ります。例・東京練馬区支部)



▲来賓の紹介



▲来賓の紹介

来賓の方々から、多額のお祝い金をいただきました。

●感謝状及び記念品の贈呈

感謝状は、牧 吉雄さんに授与されましたが、本人が欠席のため、ブロック長の深山さんが代理で石塚支部長より受理いたしました。

●集合写真を撮影

この時の集合写真は、1ページに掲載いたしました。

「第4部 記念祝賀会」

司会者 松島道昌

●乾杯の音頭

長田 繁 学員会本部顧問の発声により乾杯。

●宴会に初参加の会員の挨拶

関 正雄氏・北川 均氏・藤井輝明氏・秋山健司氏。

●応援団の演技

初めは山本哲平君と田嶋翔太君の演技。躍動感あふれる(演武)に会場から割れるような拍手。続いて応援団長の本城亜利架さん(女性)が加わり、3人で板橋区支部応援の演技。再び場内から大きな拍手が沸き起こりました。



▲勇ましい応援団の演武



▲応援団長と団員の演技

最後は応援団員も加わり、全員による校歌・応援歌・惜別の歌。

●中締め

中三川孝幸実行委員の三本締め。

●閉会の言葉 平山実行副委員長

「午後4時から8時まで、4時間にとぶ長い時間をお付き合いいただき、ありがとうございます。運営のむつかしいといわれる地域支部において、当支部は25周年を迎えることができました。これからも30年、40年と続くように、皆さんがんばって欲しいと思います」



▲平山実行副委員長 閉会の挨拶

●午後8時 お開き

参加者全員に記念品のマグカップを贈呈してお開き。(文責・写真 伊藤 潤)



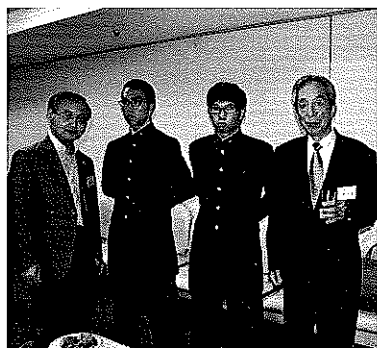
▲石塚支部長と応援団員



▲永井和之教授の講演



▲春風亭朝也さんの落語



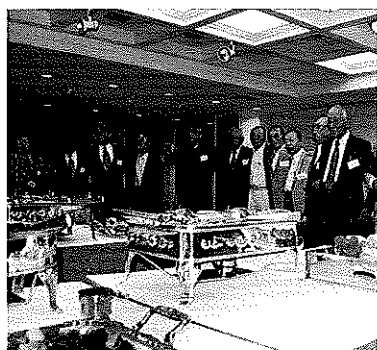
▲応援団員をねぎらう



▲応援団長と記念撮影



▲本城応援団長の挨拶



▲また何時か会いましょう



▲応援歌熱唱



▲校歌斉唱

TOPICS ①
当支部における母校教官の講演

●当支部における母校教官の講演は、何と薫香に満ちていることでしょう。

本年は、前総長・学長の永井和之教授（法学部）による『小説と法』でした。日頃から読み親しんでいる文学作品の中に「法とは何か」を問う話題が、豊富に存在することを認識させられました。

●2010年の総会では、母校創立125周年を記念して、渡部芳紀教授（文学部大学院）の『太宰治と宮沢賢治』でした。この時には、同時代に生きた芹沢光治良や中原中也のことも話されました。

●2000年の総会では、黒川剛教授（総合政策学部）の『外交と音楽』の演題で、19世紀初頭、周囲を列強に囲まれたオーストリアが戦争を避けるために毎晩舞踏会を開いたという内容でした。

いずれも気品に満ちた格調の高い講演であり、学問の大切さを感じました。
(伊藤 潤)

創立25周年記念事業

協賛金協力者名簿

創立25周年記念事業にあたり、次の方々から協賛金をいただきました。

おかげさまで盛大な事業を遂行することができ、ここから心からお礼申し上げます。

- * * *
- | | |
|----------------|----------------|
| 相沢 明 様・相場有二 様 | 高野公二 様・高西金次郎 様 |
| 浅野國昭 様・安喰裕二 様 | 高田 明 様・高橋敏美 様 |
| 池田亘利 様・石塚輝雄 様 | 宅間知和 様・多田光宏 様 |
| 石塚允信 様・伊藤 潤 様 | 千野 毅 様・鶴岡俊雄 様 |
| 猪橋進一 様・岩野 覚 様 | 徳永勝彦 様・豊田哲夫 様 |
| 内田繁夫 様・梅宮行雄 様 | 中路義雄 様・中三川孝幸 様 |
| 江袋希一 様・及川智久 様 | 仲光義継 様・中村龍一 様 |
| 大泉喜義 様・大久保隆輔 様 | 名古屋勝彦 様・成毛義光 様 |
| 大野正浩 様・大森 守 様 | 成田智弘 様・西元文武 様 |
| 大和田友二 様・岡崎一臣 様 | 野口 隆 様・畑井有里枝 様 |
| 岡田利彦 様・小野澤隆一 様 | 服部 弘 様・早坂光平 様 |
| 小野田元 様・垣内 茂 様 | 平田 豊 様・平山惟美 様 |
| 笠原 優 様・片桐久雄 様 | 藤沼弘一 様・藤野 守 様 |
| 川崎力男 様・菅 東一 様 | 布施二郎 様・古澤多美 様 |
| 國光登志子 様・久保道幸 様 | 前田昌則 様・松澤紀一 様 |
| 久米英雄 様・倉田継雄 様 | 松山幸次 様・三宅正代 様 |
| 栗原三郎 様・栗原泰房 様 | 宮崎雄文 様・深山 宏 様 |
| 小島基之 様・巨勢典子 様 | 宮村 徹 様・本橋 順 様 |
| | 茂呂安孝 様・保森俊秀 様 |

- | | |
|----------------|---------------|
| 小林健一 様・小林富士夫 様 | 矢部恵己 様・山城博光 様 |
| 小日向孝介 様・小宮 勇 様 | 山田治賛 様・山本仁二 様 |
| 小宮 仁 様・近藤 正 様 | 吉野昭一 様・吉村健正 様 |
| 酒井豊彦 様・佐藤 義 様 | 若木康夫 様・渡部富夫 様 |
| 佐藤直三 様・佐藤道則 様 | 渡辺勝利 様 |
| 篠崎 貢 様・柴崎和夫 様 | |
| 島野浩嘉 様・末田紀之 様 | |
| 菅原孝也 様・杉本和久 様 | |
| 鈴木 博 様・須田幸男 様 | |
| 関上裕次 様・高木高明 様 | |

- | | |
|----------------|----------------|
| 高野公二 様・高橋敏美 様 | 高田 明 様・高西金次郎 様 |
| 宅間知和 様・多田光宏 様 | 高野公二 様・高橋敏美 様 |
| 千野 毅 様・鶴岡俊雄 様 | 宅間知和 様・多田光宏 様 |
| 徳永勝彦 様・豊田哲夫 様 | 千野 毅 様・鶴岡俊雄 様 |
| 中路義雄 様・中三川孝幸 様 | 徳永勝彦 様・豊田哲夫 様 |
| 仲光義継 様・中村龍一 様 | 中路義雄 様・中三川孝幸 様 |
| 名古屋勝彦 様・成毛義光 様 | 仲光義継 様・中村龍一 様 |
| 成田智弘 様・西元文武 様 | 名古屋勝彦 様・成毛義光 様 |
| 野口 隆 様・畑井有里枝 様 | 成田智弘 様・西元文武 様 |
| 服部 弘 様・早坂光平 様 | 野口 隆 様・畑井有里枝 様 |
| 平田 豊 様・平山惟美 様 | 服部 弘 様・早坂光平 様 |
| 藤沼弘一 様・藤野 守 様 | 平田 豊 様・平山惟美 様 |
| 布施二郎 様・古澤多美 様 | 藤沼弘一 様・藤野 守 様 |
| 前田昌則 様・松澤紀一 様 | 布施二郎 様・古澤多美 様 |
| 松山幸次 様・三宅正代 様 | 前田昌則 様・松澤紀一 様 |
| 宮崎雄文 様・深山 宏 様 | 松山幸次 様・三宅正代 様 |
| 宮村 徹 様・本橋 順 様 | 宮崎雄文 様・深山 宏 様 |
| 茂呂安孝 様・保森俊秀 様 | 宮村 徹 様・本橋 順 様 |

(以上103人)
(アイウエオ順)



▲長田 繁 学員会本部顧問の発声で乾杯

拠出金の基準

拠出金の基準については、2012年10月26日の常任幹事会において、次のとおり承認されました。

- | | |
|--------|------|
| 常任幹事以上 | 3口以上 |
| 幹事 | 2口以上 |
| 一般会員 | 1口以上 |
- (1口・3千円)
(実行委員会)

TOPICS②
ふたりの「協賛金」協力者

●支部創立記念事業のために募られた「協賛金」協力者は、上記のとおりで、合計74万3千円が寄せられた。

その名簿の中に古澤多美さんという名前がある。2年前に亡くなった故古澤道夫さんの奥様である。天界から古澤道夫さんが指示されたものに違いない。古澤道夫さんは、かつて、区

の結婚相談員をしておられた。協賛金は「芳志」そのもので決して強制されるものではないだけに、その心遣いには頭がさがる。御芳志に深謝。

●同じく名簿の中に、保森俊秀さんという名前がある。数年前まで池袋で「あうる」という居酒屋を経営していた会員である。店内は桜の造花が一面に飾られ、お酒の好きな会員が時々集まり、楽しい時を過ごした。

店を畳んだ後は、滋賀県大津市に移住したが、板橋区を離れても支部を忘れず、協力いただき感謝。
(平山惟美)

記念品を選ぶまで

創立25周年記念実行委員

中三川孝幸

記念品の係を仰せ付かり、一瞬間の時もやりましたので、仕方ないかと考え引き受けました。

前回は「ハリカ」という記念品などを扱っている会社もあり、私も欲しい物が有ったので割と見つけ易かったのですが、今回は思い浮かばない。

初めは、今までもらった記念品で良かった物をいろいろ考えてみました。私が気に入って長い間使っていたのは、箱根駅伝で優勝した時に頂いたバスタオルでした。母校の名声は上がるし、私も誇りに思っていました。バスタオルはどうだろう、誰か業者を知っている人はいないか、値段はいくらくらいするのか、幾つぐらい用意するのかを考えてみました。

常任委員会か何かの会議の後、平山さんから記念品で良い物があるよと言われ、それはマグカップでした。マグカップは高くないかと思いましたが、皆で見に行こう

ということになり、平山さん、池田さん、私の三人で池袋の東武デパートに行ってみました。

そこにあつたのは私達が予定した価格の五倍六倍というものでした。もっと安い値段で売っている所があるという話で赤羽に行ってみました。

似たような物はあるが、私達が思い描いている物はないので、係の人を呼んでもらい尋ねてみました。すると数か月前には有ったけれど、今は無いというので、製造元に問い合わせ用意出来ることを確認し、だいたいの個数を言い、他の実行委員の了解を得た上で、正式に注文することにしました。



▲記念品のマグカップ

また包装のことも話題になり、どのような紙で包むか、安っぽく見えないかなどは私に一任ということで、この日は一段落。私達の望む物が用意できそうだというところで、一杯飲むかと赤羽

の街を少し探して居酒屋に入りました。普通の居酒屋なんですけれども店の女性は皆へそ出しルック。記念品も用意できそうだし、目の保養もさせていただき、楽しいひとときを過ごしました。

記念品は、後日私が一人で行き、現物を見て包装も確認し、文字も打ち合わせて注文いたしました。

会計の小宮さんに話してお金を預かり料金も払いました。後は当日配ればよいのでホッと一息。

しばらくしてお店からすべて用意できたという連絡がきました。少しの間お店で保管してもらい、

25周年式典の一週間前くらいに取りに行くことにしました。

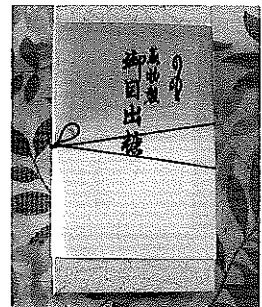
150個は結構な量で、私の車のある所まで運ぶのは大変と思いましたが、当日はお店の人が運んでくれました。

しかし、式典会場の東武バンクツトホールでは往生しました。

6月22日当日お招きした方々や会員に配った残りを私の事務所を持って帰ることにになり、初めから一部は事務所に置いておけばよかったと反省もしました。

協賛金を頂いて、式典当日来られなかった人に配り、現在残りの在庫は二つです。

○手土産に「御日出糖」



▲御日出糖

●周年記念事業を兼ねる支部の総会には、大学及び学生会本部の他に都区内の他支部を来賓に招いているが、手土産にはその都度頭を痛めている。

「お弁当のおかずと一緒」とは、三宅正代(副支部長)さんの嘆き節だった。長期病欠の彼女に代わって、事務局がテレビの情報で手当てしたのが、「御日出糖」という名の和菓子。

●土・日を除く平日の毎朝9時55分からテレビ朝日が放映する「若大将のゆうゆう散歩」で、加山雄三が浅草橋駅周辺を散歩した番組で見つけた商品だが、店の名が「萬年堂」で商品名が「御日出糖」と縁起がよい。

支部創立25周年を祝う記念の品として手土産に選定したが、満足してもらえたかな。

(実行委員会事務局)

25 にまつわる話

平山 惟美

支部創立25周年に因み、25という数字にまつわる話題を集めてみた。数字は単なる数を表わす文字というだけでなく、数字の裏側にあるもの……歴史とか時間とか順番等々数字で表わすことのできない様々な事柄がある。数字のもつ偉大さ、面白さに目を向けてみよう。

時計の針を25年前に戻してみよう。竹下内閣の時代で、三月に青函連絡船の開通。水俣病刑事裁判でチソソ元社長の有罪確定。四月瀬戸大橋開通。

八月、リクルート疑惑発覚等が記憶に残る出来事だった。「東京ドームもこの年三月に完成しているヨ」とは入院中のリハビリのトレーナーから教えられた。

東京ドームと言えば、プロ野球のメッカ。ホームチームの巨人は今年もセ・リーグを制覇し、主軸を打って優勝に貢献した村田修一選手の背番号は25。ライバルの阪神の主軸を打った新井貴浩選手の背番号も25。パ・リーグの覇者・楽天の四番を打ったA・ジョーンズやオリックスの李大浩選手は、共に25の背番号を背負い活躍した。外国人選手も含めて人気の

ある番号である。

一リーグ時代の読売巨人軍の外野手に、平山菊治という塀際の魔術師と言われる守備の名手がいた。その人の背番号が25で、同姓のよしみもあつて忘れることができない。

屋根のない野球場は、降雨に泣かされ、真夏の炎天下の観戦は、苦痛でもあつた。東京ドームは、福岡・名古屋・札幌と他の球場のさきがけとなつて、野球界の発展にも大いに貢献した。

* 暑さ寒さも彼岸まで“とは、よく言つたもので、人に快適な気温は25度前後と言われる。猛暑の続いた今年の夏は、冷たいビールに喉を潤したが、中秋をすぎたこれからの季節は、日本酒がうまい。冷やでよし、常温でよし、しかし、本當にうまい酒は、燗酒であろう。

いや、常温の地酒も忘れてはならない。九州の鹿児島へ行って酒を注文すると、黙っていても焼酎が出てくる。ポットの湯で割って飲むのだが、割り方も九州固有の割り方がある。割つた後で梅干を所望したら笑われた。

そんなことより、何故ご当地でもお湯で割るかと言えば、アルコール度数が日本酒より高いため通常25度が標準。甲類乙類共通で25度には理由があるのだろうか。健康によいということと焼酎の

人気は高いが、飲むならロックだと思う。学生時代は高価なビールは飲めず、安い二級酒を飲むなら焼酎(甲類)をと、寶酒造さんには随分とお世話になつた。

受皿に並々と溢れるまで注いでくれる女将にはホメ殺し、焼鳥を片手にグビーとやる。無論焼酎をお湯などで割ることはせず、ストリート。まだ東京には、九州産の諸焼酎など出回っていない時代で、甲類の焼酎は「寶」が独占状態だった。酒談義になつてしまった。

話を先に進めよう。私は学校を卒業して25歳の時

に結婚した。そして25年の節目に「銀婚祝」として会社から金一封をもらった。既婚者に数少ない福利厚生策の一つ。記念の祝賀を行なうカップルもあつたかも知れないが、たかが銀婚、されど銀婚。セレモニを省いた女房の機嫌の悪いこと、悪いこと……。

今にして、成田離婚という流行語があつたことを思えば、四半世紀を一つ屋根の下に一緒に暮らした夫婦の絆は強固で、十分祝福に値するものだと思う。許せ女房殿!

因みに、10年は錫婚式、20年は磁器婚式、30年は真珠婚式、50年は金婚式と、歴史の重みが実によく伝わってくる。今年の台風25号と連れだつて……。第185回臨時国会が召集され、53日間という短い会期で多くの重要法案が審議された。参議院議員の被選挙権は、30歳だが、衆議院議員は25歳である。この五歳の差は何だろう。同じ年齢でもよさそうに思うが、衆議院で議決された法案を再度審議するというチェック機能を考えてとき、若さより経験を尊重する思想が働いているのだろうか?良識の府といわれた参議院だったが、選

挙の結果でネジレが解消され、教が頼みの政治に後戻りしてしまつた。

被選挙権年齢などどうでもよい話になつたことだけは確かだ。

* * *

いま大学の水泳界は、中大の天下だという。国際大会で活躍するほどの著名な選手はいないが、今年インカレで三連覇をめざしたが、総合結果で13・5秒差で中京大に敗れ、二位に泣いた。

水泳のプールには、ご存じのとおり長水路と短水路プールの二種類があり、25メートル以上50メートル未満のプールのコースが短水路で、コースの長さが50メートル以上のものが長水路。

短水路は25メートル以上といつても殆んどが25メートル丁度の設計で各自自治体の運営する福祉施設や小・中学校などに設置されている。建設コストも低廉で保守点検も容易である。

一方、公式の競泳が行われるプールは原則的に長水路の50メートルプールである。何故長水路が50メートルなのかは分からないが、競泳では距離のカウントが容

易でないといけない。競技種目は、50の倍数であることを考えると、あながち見当違いでもあるまい。

短水路は、同じ理屈で距離カウントは面倒でも、レク施設と割り切れれば事足りる。

サラリーマンの給料日は、申し合わせたように今も昔も25日が圧倒的に多い。たまに月末支払いというのを聞いたことがあるが、余り評判がよくない。

何故給料日は25日なのか？

一般家庭では、新聞の購読料やテレビの視聴料など月末集金が多かった筈だ。公共料金は最近でこそ金融機関の口座から自動振込みの制度が普及して否応なしに取り立ては厳しい。

ひと昔前まで、一般商店では掛売りという商習慣があり、月末集金が多く、買掛けした一般家庭では、支払いの混雑をさけるために一足早い給料が必要だった。

事業主は、従業員（使用人）が希望する日を給料支払日に定めることは何等問題でなく、「就業規則」に明確に記載してあればよい。

①就業時間（休憩時間及び休日を含む）に関する定め

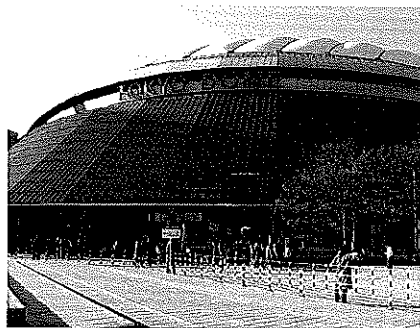
②解雇基準

③給与（金額・支払日を含む）に関する定め

を絶対に必要な記載事項として最寄りの労働基準監督署に届け出ているから、遅配・欠配はない。

* * *

この物語は、東京ドームの開設から始めたが、最終は四国の瀬戸大橋の開通で幕を閉じたい。



▲東京ドーム (写真・平山)

大橋は、本州と四国を連絡する橋の一つで、倉敷市児島から塩飽諸島の与島などを経て坂出市までの全長9.4キロメートルの海峡部を結ぶ橋。下津井瀬戸大橋、南・北

備讃瀬戸大橋など道路・鉄道併用の6橋から構成されている。

夢の橋が完成して、四国の経済発展が大いに期待されたが、現在の四国の姿はどうであろうか――。

四国と言え、空海の修業の遺跡である八十八箇所の霊場を巡拝するお遍歴さんを想い出す。

徳島県の靈山寺（一番札所）を出発して、時計回りに高知県に入るとすぐのところに25番札所がある。宝珠山・津照寺といつて、所在は室戸市室津。

八〇七年（大同）大師が航海の安全と豊漁を祈願し、延命地藏菩薩を刻み本尊としたのが始まりとされる。

この本尊は、土佐藩主・山内一豊が室戸沖で遭難しかけたとき、僧の姿となり、船の楫を取って救つたと言い「楫取地藏」と呼ばれる。

四国へ出張した時、石毛寺（51番）、善通寺（75番）、屋島寺（84番）の三寺をとびとびに参詣したが、残る八十五寺はいつお参りできるか？

まるで見当がつかない。

（副支部長）

秋の旅行の記録

池田亘利

(これまで紀行文が書かれたのは、平成3年の武内崇泰氏の一編のみ)

平成15年(2003年)

11月29日〜30日 28人
千葉県/千枚田、小湊、大多喜

(紀行文 金子益朗)

群馬県/ハツ場 猿ヶ京温泉

(紀行文 三宅正代)

* 22ページに紀行文を再掲載

平成8年(1996年)

12月7日〜8日 27人
群馬県/川湯、四万、水沢

(紀行文 平山惟美)

平成16年(2004年)

11月13日〜14日 26人
静岡県/熱海、十国峠、小田

(紀行文 金子益朗)

群馬県/ハツ場

平成23年(2011年)

11月12日〜13日 23人
長野県/安曇野、松本城

(紀行文 伊藤潤)

平成17年(2005年)

10月29日〜30日 28人
新潟県/魚沼、大湯、奥只見

(紀行文 金子益朗)

群馬県/ハツ場

平成24年(2012年)

11月3日〜4日 20人
宮城県/仙台、松島、東松島

(紀行文 鈴木裕)

平成1年(1989年)

10月21日〜22日 人数不明
神奈川県/葉山、鎌倉

平成2年(1990年)

11月11日〜12日 30人
神奈川県/箱根湯本

平成3年(1991年)

11月16日〜17日 29人
神奈川県/小田原、湯河原

平成4年(1992年)

11月15日〜16日 19人
神奈川県/箱根強羅

平成5年(1993年)

11月6日〜7日 18人
埼玉県/秩父路

平成6年(1994年)

11月12日〜13日 17人
群馬県/伊香保、榛名

平成7年(1995年)

11月12日〜13日 15人
神奈川県/箱根強羅

平成12年(2000年)

11月18日〜19日 30人
群馬県/上州、伊香保、榛名

(紀行文 三宅正代)

平成13年(2001年)

11月17日〜18日 31人
茨城県/勿来、母畑、白河

(紀行文 大野正浩)

平成14年(2002年)

11月16日〜17日 24人
長野県/小諸、角間、善光寺

(紀行文 平山惟美)

平成18年(2006年)

10月28日〜29日 27人
福島県/猪苗代、会津芦ノ牧

(紀行文 金子益朗)

平成19年(2007年)

11月23日〜24日 25人
山梨県/昇仙峡、下部、身延山

(紀行文 金子益朗)

平成20年(2008年)

11月22日〜23日 25人
栃木県/今市、川治、宇都宮

(紀行文 金子益朗)

平成21年(2009年)

11月13日〜14日 23人
静岡県/浜名湖、館山寺、浜松

(紀行文 前田昌則)

平成22年(2010年)

11月27日〜28日 17人
* 21ページに紀行文を再掲載

平成25年(2013年)

秋の旅行は、これまで24年間休まずに続きましたが、25年は諸事情により、残念ながら中止でした。



▲松島湾のかもめ (写真・伊藤)



▲ハツ場ダムの近くにて

平成21年 秋の旅行記

浜名湖・館山寺温泉を訪ねました

リポーター
前田 昌則

■快適な東名ドライブ

支部恒例の行事・秋の旅行は、昨年11月13日（金）から一泊で浜名湖・館山寺温泉を訪ねました。

二十三名を乗せた観光バスは、浜名湖を目指して板橋グリーンホテル前を出発。担当ガイドは、自称「中村メイコ」と自己紹介する大ベテランで、ユーモアに富んだ挨拶で車内の笑いを誘う。

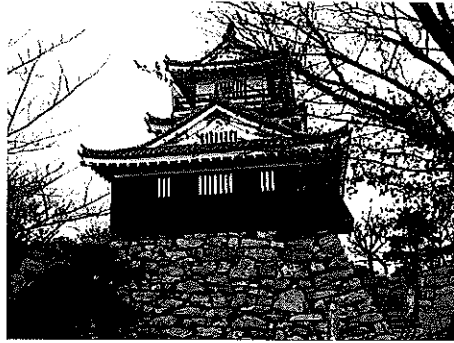
発車して十分後には、後部サロン席から「乾杯！」の音が沸き上がり、楽しい旅の期待が一気に高まりました。

途中、トイレ休憩を挟みながら東名高速をひた走り、予定通り浜名湖ハマナ・コスタ港に到着。

昼食後、観光船で三十分程で館山寺温泉に着きました。ホテルに入る前に、弘法大師が開いた古刹として、その後源頼朝が自らの祈願寺として、再建したという曹洞宗の禅寺・館山寺を参拝。周囲に遊歩道があり、途中に点在する「縁結

地藏尊」や「聖観音」に合掌。高台からの浜名湖の景色も楽しめました。

「レイクホテル・花乃井」に到



▲写真は浜松城(出世城)

着後は、大浴場や露天風呂でゆっくりと湯につかり、身体を温めました。

大広間で始まった宴会は、いつものように酒・肴に舌鼓を打ちながら、にぎやかに歓談が続き、誕生日を迎えた会員を祝う「ケーキカット」も行われ、カラオケのど

自慢の競演となりました。

ホテルの代表者（61歳）は、白門のOBであることが分かり、たまたま不在のことで代わりに営業部長が挨拶され、飲み物をサーブしてくれました。

■雨男がいたか？

翌朝は、雨音で目が覚めたほどの豪雨でしたが、出発時には雨もあがり傘は使わずに済みました。

浜松は、「若き徳川家康に想いを馳せる」出世城とも称される浜松城を中心に、戦国時代に関わる史跡を訪ねる観光客が増えているそうです。

家康は、「三方ヶ原の戦い」で武田信玄に大敗。命からがら浜松城に逃込みました。その後、一矢を報いようと、犀ヶ崖近くに野営する武田軍を急襲し、地理に不案内な武田軍は混乱して崖から転落して、多くの犠牲者を出したことが「犀ヶ崖資料館」に遺されています。

ここで、館員の話やビデオにより、徳川と武田軍が戦った経緯から家康の強運が自らの命を救ったのではと、説明を受けました。浜松城の天守閣には、家康に関

するエピソードや武具などの資料が展示されており、出世城と呼ばれた理由も説明されています。

家康が天下を統一して駿府に入場した後、出世城は家康ゆかりの譜代大名が城主になり、多くが老中等に出世したためであり、特に有名な城主は、天保の改革で知られる水野忠邦とされており。

■ドイツ料理を満喫

昼は、「はままつ地ビール・レストラン」でドイツ・バイエルン地方特産の地ビールとドイツ料理の昼食をとり、前日から和食が続いたこともあり、全員から「美味しい！」と、大好評。売店では、ビールをはじめ土産をしっかりと買いました。

また近くの地酒の蔵元で、清酒の仕込み蔵を見学。当蔵元のメイ清酒「出世城」などを試飲して満足顔でバスに乗り込み、帰路につきました。

東京に向かう車内は、何度も繰り返される乾杯！と、カラオケで前夜の宴会同様に盛り上がりました。途中、首都高が渋滞しましたが、午後六時三十分ころ板橋区役所前に無事到着しました。

平成22年 秋の旅行記

晩秋の上州を歩く

三宅正代

■にわかガイドに拍手

恒例の秋の旅行、今年は群馬県猿ヶ京温泉。十一月二七日(土)、定刻八時過ぎに佐藤副支部長お見送りのもとグリーンホールを出発。間もなく幹事長及び旅行幹事の挨拶。終了後「乾杯！」の声が上がり車内はいっきに盛り上がった。お酒をいただくみんなの顔は幸せそのもの、笑顔がはじけていた。今回の旅行は参加者が十七名と少なく、経費の都合上バスガイドの添乗もなかった。が、その分群馬県出身の松島さんが頑張ってくれました。訪れる地域について、ガイドさん以上のわかりやすく詳しい説明に、車内の皆さんから感嘆の声が上がった。

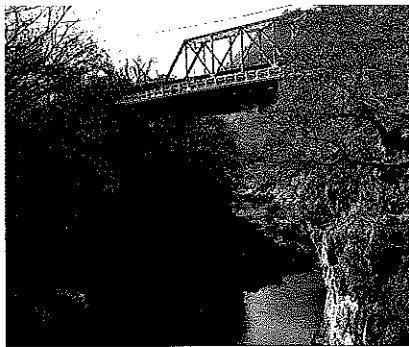
最初の訪問地は、あの有名な「八ッ場ダム」、群馬県長野原町。吾妻川沿いに設営されている

「やんば館」を見学。そこは八ッ場ダムの広報センターで多くの資料が展示しており、ダム建設の目的と経緯を訴えかけていた。何十年にわたり政治に翻弄されている地元住民の苦悩をマスコミが伝えたせいも、前原国土交通大臣(当時)がダム中止を発言して以降、この地を一目見ようと訪れる観光客が急増し、一日に二〇〇人も来たことがあるとのこと。世間の喧騒をよそに何事もなかいかにように吾妻川の渓谷と紅葉した木々は、秋の日に映えて静かにたたずんでいた。昼食後、小春日和のなか吾妻渓谷を散策。自然の山懐に抱かれる気分は格別でした。

午後四時に目的の猿ヶ京温泉に到着。豊かな自然に囲まれたホテルで源泉掛け流しの温泉にゆつくりつかり、今日の疲れを癒し心身共にリフレッシュし、六時からの宴会に臨んだ。

宴会はにぎやかに楽しく始まった。お料理はお宿自慢の豆腐懷石がメイン。大女将がお豆腐

にこだわりがあると言うだけあって大変美味であった。時間のたつのも忘れ、おおいに親睦を深めた。何しろ追加のお酒が三十本以上、いかに盛り上がったかわかるとういうもの。宴会終了後は、別室で大女将がこの土地に伝わる民話を話してくれるサービスもあり、しばし昔の懐かしい気分になり、最後はいつものごとくカラオケを全員で楽しみ、この日は終わった。



▲写真は吾妻渓谷

■山里の伝統工芸を見学

翌日も晴天。宿のみんなに送られ、谷川岳を眺めながら出発。午前中は旧三国街道、須川宿にある「たくみの里」を訪れた。

山里の伝統工芸を今に伝える工房(木工・和紙・わら細工・藍染め等々)が二四軒、観光農園が二五カ所点在する一帯は落ち着いた雰囲気の村であった。

案内人の方は地元のボランティア。元教師で八十歳をこえていらしたが、かくしゃくとして熱心に説明されている姿に心打たれるものがあつた。町民総出で町作りに取り組んでいるとの言葉通り、随所にその心意気を感じた須川宿。

昨日訪れた廃校利用の「伊参スタジオ公園」といい「たくみの里」といい地域興しに熱心な土地である。また直売所で売っているりんごのおいしかったこと。大量に買い込んだのはいうまでもない。

最後に訪れたのは、渋川市の「聖酒造」。二度目の見学であつたためか説明もそこそこに売店へ。試飲し各自お気に入りのお酒を買い込んでいた。買い込んだお酒でまた「乾杯！」。後部座席は最後まで宴会状況。車内でのカラオケを楽しみながら、伊香保ICから予定通り順調に帰路についた。

中央大学学員会 東京板橋区支部の活動 年表 (平成11年度～平成25年度)

年 度	年 月 日	東京板橋区支部の活動	年 月 日	母校のできごと
平成 11年度 (1999.4～ 2000.3)	1999. 4. 10	観桜会 安田庭園 33人	1999. 5. 26 6. 8 11. 6 2000. 1. 3 3. 19	新理事長に阿部三郎氏就任 野球部・東都1部に復帰 新学長に鈴木康司氏就任 箱根駅伝 3位 故高木友之助総長 大学葬
	4. 17	定例囲碁会 西池囲碁サロン 16人		
	6. 18	常任幹事会 文化シャッター研修所 18人		
	6. 26	定時総会 文化会館 69人		
	6. 23	パソコン教室(～7月2日)東亜興業 延30人		
	8. 15	『白門板橋』第12号発送		
	8. 20	第1回 カラオケ大会 フジハナ 15人		
	9. 20	ゴルフ会 森林公園 18人		
	10. 25	会員増強入会勧誘状発送 社会教育会館 20人		
	11.27～28	秋の旅 常陸・下総を訪ねる旅 28人		
	2000. 1. 22	新年会 文化会館 79人		
	3. 13	規約改正委員会 中大駿河台記念館 4人		
3. 29	正副支部長会 常盤台町集会場 9人			
平成 12年度 (2000.4～ 2001.3)	2000. 4. 1	観桜会 加賀公園 35人	2000. 4. 1 4. 4 9.15～ 10. 1 2001. 1. 3	市ヶ谷キャンパス 開校 東都野球春季リーグ戦開始 4位 シドニー五輪に中大から 14選手出場 箱根駅伝 3位
	4. 15	囲碁部・月例会 西池囲碁サロン 14人		
	4. 28	第3回カラオケ大会 フジハナ 15人		
	5. 19	常任幹事会・幹事会 産文ホール 65人		
	6. 13	ブロック長会議 文化シャッター研修所 18人		
	6. 24	文化講演会 127人・定時総会 77人		
	7. 14	常任幹事会 サンイチ 26人		
	8. 23	『白門板橋』・旅行案内の発送業務 12人		
	9. 7	ゴルフコンペ 錦ヶ原ゴルフ場 18人		
	11.18～19	秋の旅 上州を訪ねる旅 30人		
	11. 20	都区内支部連絡協議会出席		
	2001. 1. 19	新春の集い 文化会館 81人		
3. 13	会報・観桜会案内状の発送業務 13人			
平成 13年度 (2001.4～ 2002.3)	2001. 4. 8	観桜会 茂呂山公園 32人	2001. 6. 1 7. 22 2002. 1. 3	東京板橋区支部の岩澤忠弘 副支部長が、学員会本部の 幹事に選任 福岡で開催の世界水泳選手 権大会で、山野井智広選手 が銅メダル 箱根駅伝 4位
	4. 28	囲碁会 練馬支部と親善対抗戦 12人		
	5. 11	常任幹事会 産文ホール 24人		
	5. 18	カラオケ大会 日本エンドレス 21人		
	6. 1	幹事会 産文ホール 41人		
	6. 23	定時総会 文化会館 69人		
	7. 25	正副支部長役員会 文化シャッター研修所 10人		
	9. 10	会報及び旅行案内書発送作業 同上 14人		
	10. 12	ゴルフコンペ ノーザン錦ヶ原 16人		
	10. 27	都区内支部連絡会 文化会館 総員 99人		
	11.17～18	秋の旅 福島の間所跡と母畑温泉 31人		
	2002. 1. 18	新春の集い 文化会館 80人		
3. 11	会報・観桜会案内状の発送作業 11人			

年 度	年 月 日	東京板橋区支部の活動	年 月 日	母校のできごと
平成 14年度 (2002.4～ 2003.3)	2002. 4. 6	観桜会 城北公園 40人	2002. 5. 29 7. 15 10. 13 10. 31 11. 13 2003. 1. 3	東都大学野球春季戦2位 多摩キャンパス「炎の塔」 竣工 新学長に角田邦重法学部教 授が選任 東都大学野球秋季戦5位 司法試験に105人合格 箱根駅伝 5位
	4. 10	ゴルフ会 寄居CC 18人		
	4. 20	囲碁同好会 (以降毎月第3土曜日) 12人		
	4. 26	常任幹事会 ハイライフプラザ 25人		
	5. 17	カラオケ大会 ベルフラワー 33人		
	5. 23	幹事会 文化会館 39人		
	6. 22	定時総会 文化会館 73人		
	7. 25	常任幹事会 サンイチ 25人		
	9. 20	会報・旅行案内発送 文化シャッター研修所		
	11.16～17	秋の旅行 信州・角間・善光寺 24人		
	2003. 1. 24	新春の集い 文化会館 68人		
	2. 28	常任幹事会 ハイライフプラザ 27人		
	3. 10	会報・観桜会案内発送 常盤台事務所 10人		
平成 15年度 (2003.4～ 2004.3)	2003. 4. 5	観桜会 常盤台公園 37人	2003. 8. 1 11. 17 2004. 1. 3	第47回全日本学生本因坊決 定戦で白石勇一君が優勝 中大理事会は総長に外間寛 名誉教授を選任 箱根駅伝 7位
	4. 16	ゴルフコンペ 浦和ゴルフ 23人		
	4. 26	囲碁同好会 西池会館 12人		
	5. 23	カラオケ同好会 19人		
	5. 30	常任幹事会兼幹事会 産文ホール 51人		
	6. 21	学術講演会 140人(一般45人を含む) 定時総会・懇親会 文化会館 81人		
	7. 23	都区内支部連絡会 中大後楽園 2人		
	8. 22	常任幹事会 サンイチ 27人		
	9. 18	会報発送 文化シャッター研修所 13人		
	11.29～30	秋の旅行 房総の旅 27人		
	12. 20	忘年会 よし邑 47人		
	2004. 1. 31	新春の集い 文化会館 74人		
	3. 15	常任幹事会 文化シャッター研修所 21人		
平成 16年度 (2004.4～ 2005.3)	2004. 4. 3	観桜会 赤塚公園 43人	2004. 5. 15 5. 26 11. 5 2005. 1. 3	学員会本部は、小日向孝介 当支部長を永年支部長とし ての功労で表彰 東都野球春季リーグ戦2位 東都野球秋季リーグ戦1位 箱根駅伝 4位
	4. 21	ゴルフコンペ 浦和ゴルフ 19人		
	4. 24	囲碁同好会 西池会館 12人		
	5. 20	幹事会 ハイライフプラザ 44人		
	5. 22	カラオケ大会 ベルフラワー 12人		
	6. 19	定時総会 文化会館 71人		
	7. 6	会員名簿発行会議 喫茶店・宝石 6人		
	8. 17	常任幹事会 池袋・あうる 23人		
	8. 27	会員名簿校正作業 喫茶店・宝石 7人		
	9. 17	会報発送作業 文化シャッター研修所 10人		
	11.13～14	秋の旅行 東伊豆を訪ねる 26人		
	12. 11	忘年会 よし邑 44人		
	2005. 1. 22	新年会 文化会館 69人		
2. 6	白門グリーンクラブ鑑賞 北とびあ 30人			

年 度	年 月 日	東京板橋区支部の活動	年 月 日	母校のできごと
平成 17年度 (2005.4～ 2006.3)	2005. 4. 2	観桜会 隅田川・屋形船 39人	2005. 8. 5 11. 6 11. 12 12. 5 2006. 1. 3 2. 12	第49回全日本学生本因坊 決定戦で村上深君が初優勝 永井和之法学部教授が中大 学長に就任 新理事長はセブン&アイH D会長兼CEOの鈴木敏文 氏が就任 理事会にて、永井和之学長 を総長に選任(学長兼務) 箱根駅伝 8位 北方謙三氏が『水滸伝』で 第9回司馬遼太郎賞受賞
	4. 21	ゴルフコンペ ノーザン錦ヶ原 20人		
	4. 22	常任幹事会 ハイライフプラザ 25人		
	4. 24	囲碁同好会 西池会館 12人		
	5. 20	幹事会 ハイライフプラザ 33人		
	5. 27	カラオケ大会 サンイチ 15人		
	6. 24	定時総会 文化会館 67人		
	9. 1	パソコン教室 ハイライフプラザ 20人		
	9. 21	会報発送作業 文化シャッター研修所 10人		
	10. 23	ホームカミングデー 多摩キャンパス 25人		
	10.29～30	秋の旅行 越後・大湯温泉 28人		
	12. 9	忘年会 割烹・かすが 47人		
	2006. 1. 21	新年会 文化会館 59人		
	1. 26	HP開設準備会議 アイタワー 13人		
平成 18年度 (2006.4～ 2007.3)	2006. 4. 1	観桜会 都立養育院 34人	2006. 8. 6 9. 21 2007. 1. 3	第50回全日本学生本因坊 決定戦で村上深君が優勝 し、2連覇を達成 新司法試験で中大131人合 格、大学別では第1位 箱根駅伝 昨年同様8位
	4. 17	パソコン教室 アイタワー 15人		
	4. 18	ゴルフ・コンペ ノーザン錦ヶ原 20人		
	4. 22	囲碁同好会 西池会館 12人		
	5. 26	幹事会 グリーンホール 37人		
	6. 23	定時総会 文化会館 72人		
	7. 28	カラオケ同好会 サンイチ 17人		
	9. 11	常任幹事会 サンイチ 24人		
	10. 22	ホームカミングデー 多摩キャンパス 26人		
	10.28～29	秋の旅行 会津 27人		
	11. 22	都区内支部主催ジャズコンサート 30人		
	12. 9	忘年会 よし邑 40人		
2007. 1. 20	新年会 文化会館 58人			
平成 19年度 (2007.4～ 2008.3)	2007. 4. 1	観桜会 平和公園 36人	2007. 5. 19 2008. 1. 3 2. 22	大相撲、本日の取り組みで、 出島関・玉春日関・豪風の 3力士がそろって快勝 箱根駅伝 7位 硬式野球部、OB会を開き、 監督に高橋善正氏を起用す ると発表
	4. 16	ホームページ委員会 山本事務所 延56人		
	4. 20	常任幹事会 グリーンホール 23人		
	5. 25	幹事会 グリーンホール 40人		
	6. 7	石塚前区長退任慰労会 美濃吉 34人		
	6. 22	定時総会 文化会館 83人		
	8. 23	常任幹事会 サンイチ 24人		
	9. 14	20周年準備委員会文化シャッター研修所 18人		
	10. 28	ホームカミングデー多摩キャンパス 25人		
	11.23～24	秋の旅行 下部温泉 25人		
	12. 14	忘年会 そば割烹「おかだ」44人		
	2008. 1. 25	新年会 ハイライフプラザ 58人		
	3. 11	20周年準備委員会 文化シャッター研修所 16人		
	3. 28	常任幹事会 サンイチ 24人		

年 度	年 月 日	東京板橋区支部の活動	年 月 日	母校のできごと
平成 20年度 (2008.4～ 2009.3)	2008. 4. 2	ゴルフ同好会 16人		
	4. 5	観桜会 見次公園 36人		
	4. 8	パソコン教室 ハイライフプラザ 延56人		
	4. 14	20周年事業打合わせ ルノアール 5人		
	4. 26	囲碁同好会 西池会館 20人		
	5. 9	カラオケ同好会 サンイチ 20人	2008. 9. 11	新司法試験 196人合格2位
	5. 30	幹事会 グリーンホール 35人	9. 20	大相撲、本日の取り組みで 玉春日関・豪風・出島関が そろって完勝
	6. 28	定時総会・20周年記念事業 文化会館 106人		
	8. 22	常任幹事会 サンイチ 29人		
	10. 26	ホームカミングデー 多摩キャンパス 18人	10. 31	東都野球秋季リーグ戦3位
	11. 4	「ホームページ開設」報告会 丸亀 8人		
	11.22～23	秋の旅行 川治温泉 24人	2009. 1. 3	箱根駅伝 10位
	12. 6	忘年会 鳥忠総本店 37人	1. 11	第57回全日本大学サッカー 選手権大会決勝戦で1位
2009. 1. 24	新年会 文化会館 59人	1. 14	高窪統教授刺殺事件発生	
3. 23	常任幹事会 サンイチ 27人			
平成 21年度 (2009.4～ 2010.3)	2009. 4. 4	観桜会 上練馬公園 38人		
	5. 22	幹事会 グリーンホール 30人	2009. 5. 27	東都野球春季リーグ戦4位
	6. 20	定時総会 文化会館 61人		
	9. 15	会報発送 文化シヤッター研修所 10人		
	9. 25	区民まつり参加会議 グリーンホール17人		
	10.17～18	区民まつり初参加 39人	10. 28	東都野球秋季リーグ戦4位
	10. 25	ホームカミングデー 多摩キャンパス 25人	12. 28	須藤正彦氏、最高裁判所判 事に就任
	11.13～14	秋の旅行 浜名湖、館山寺温泉 23人		
	12. 12	忘年会 トミコシ会館・王華 43人		
	2010. 1. 23	新年会 文化会館 58人	2010. 1. 3	箱根駅伝 4位
	3. 17	会報発送 文化シヤッター研修所 10人	1. 6	横田尤孝氏、最高裁判所判 事に就任
3. 26	常任幹事会 グリーンホール 26人			
平成 22年度 (2010.4～ 2011.3)	2010. 4. 3	観桜会 屋形船 28人	2010. 4. 1	小金井市の中大附属高校の 隣に附属中学校が開校
	4. 6	ゴルフ同好会 22人		
	5. 7	カラオケ同好会 (年2回) 延56人	5. 15	駿河台記念館で行われた学 員会の定時総会において、 蓮池薫氏 (2008年・法卒) が講演
	5. 19	パソコン同好会 (年7回) 延63人		
	5. 27	幹事会 グリーンホール 35人	5. 27	東都野球春季リーグ戦3位
	6. 26	定時総会 文化会館 69人	7. 23	第13回世界ジュニア陸上選 手権大会 (カナダ) の 200 メートルで、飯塚翔太選手 が金メダル獲得
	8. 19	常任幹事会 サンイチ 30人		
	9. 28	会報発送作業 常盤台町会事務所 10人	10. 22	東都野球秋季リーグ戦3位
	11. 21	中大125周年記念レガッタ出場 19人	11. 23	125周年記念式典 多摩校舎
	11. 23	中大125周年記念式典 多摩キャンパス 3人		
	11.27～28	秋の旅行 猿ヶ京温泉 17人		
	12. 6	忘年会 よし邑 45人		
	2011. 1. 22	新年会 文化会館 56人	2011. 1. 3	箱根駅伝 6位
	3. 16	会報発送作業 文化シヤッター研修所 10人		

年 度	年 月 日	東京板橋区支部の活動	年 月 日	母校のできごと
平成 23年度 (2011.4～ 2012.3)	2011. 4. 3	観桜会 東日本大震災のため中止		
	4. 12	ゴルフ同好会 グレンオーक्सカントリー 22人	2011. 4. 29	春の叙勲で眞壁史朗氏(板橋区支部)に藍綬褒章
	5. 6	カラオケ同好会(年2回) サンイチ延62人		
	5. 11	パソコン同好会(年6回) ハイライフ延45人		
	5. 26	幹事会 グリーンホール 36人	5. 26	東都野球春季リーグ戦4位
	6. 18	定時総会 文化会館 68人		
	9. 15	会報発送 文化シャッター研修所 10人	8. 1	後樂園キャンパスに新2号館が竣工
	9. 28	常任幹事会 サンイチ 22人		
	11.12～13	秋の旅行 信州安曇野・松本 23人	10. 27	東都野球秋季リーグ戦6位
	12. 10	忘年会 好味来 42人	11. 6	中大総長・学長に福原紀彦教授が就任
	2012. 1. 21	新年会 文化会館 57人		
3. 23	常任幹事会 グリーンホール 27	2012. 1. 3	箱根駅伝 8位	
平成 24年度 (2012.4～ 2013.3)	2012. 4. 7	観桜会 茂呂山公園 34人	2012. 4. 11	小貫芳信氏、最高裁判事就任
	4. 7	囲碁同好会(毎月第4土曜日)延120人	5. 9	山岸憲司氏、日弁連会長就任
	4. 12	ゴルフ同好会(年2回)延46人	5. 25	学会会の年会費制度廃止
	4. 19	パソコン同好会(年7回) アイタワー延80人	5. 29	東都野球春季リーグ戦3位
	5. 11	カラオケ同好会(年2回) サンイチ 延36人	8. 5	ロンドン五輪のフェンシング男子フルーレ団体戦で千田健太選手が銀メダル獲得
	5. 18	幹事会 グリーンホール 25人		
	6. 16	定時総会 文化会館 60人	9. 11	司法試験中大202人合格1位
	10.20～21	板橋区民まつり参加 延30人	10. 25	東都野球秋季リーグ戦2位
	10. 28	ホームカミングデー 多摩キャンパス 25人	10. 29	理事会は理事長に足立直樹氏(凸版印刷会長)を選任
	11.3～4	秋の旅行 奥松島を訪ねて 20人		
	12. 8	忘年会 庄や上板橋店 42人	2013. 1. 3	箱根駅伝 往路途中棄権
2013. 1. 26	新年会 文化会館 48人			
平成 25年度 (2013.4～ 2014.3)	2013. 4. 6	観桜会 天祖神社・石神井川	2013. 5. 30	東都野球春季リーグ戦4位
	4. 17	パソコン同好会 アイタワー	6. 3	理事会にて福原紀彦総長の辞任了承(学長留任)、総長職は遠山曉氏が代行に決定
	5. 10	カラオケ大会 サンイチ		
	5. 16	創立25周年記念案内状発送 常盤台町会事務所	9. 10	司法試験177人合格 4位
	5. 17	幹事会 グリーンホール	10. 19	箱根駅伝予選会で12位、からくも出場権を獲得
	6. 22	定時総会・創立25周年記念式典と祝賀会		
	9. 12	会報発送 文化シャッター研修所	10. 27	ホームカミングデーは台風接近中により中止
	10.19～20	区民まつり参加(20日は雨で午前中のみ)	10. 31	東都野球秋季リーグ戦5位
	11. 9	秋の旅行は中止		
				(注:平成25年度は未完、概略のみ掲載)

(年表作成上の基準)

- ① 支部の活動は、参加人数の多い事項を最優先に掲載した(以下②③④まで支部の活動)。
- ② 新年会・総会・秋の旅行・新年会などの定期行事はできるだけ載せた。
- ③ 同好会はおおむね1回のみ記載し、2回目は省略した。
- ④ 参加人数の少ない事項も掲載したが、その際には通常の行事は省略した。
- ⑤ 母校のできごとは、年月日の判明したもののみを掲載した。

(参考文献)『白門板橋』第11号～第40号 (年表作成者) 栗原三郎・池田互利・大野正浩・伊藤 潤

創立25周年記念実行委員会

委員長 石塚輝雄 (支部長)

副委員長 平山惟美 (副支部長)

事務総轄 大野正浩 (事務局長)

会場設営* 深山 宏 (副支部長)

松島昌道・大野正浩

(会場選定・設営・看板)

放送機器・受付など)

式典進行* 松島昌道 (副支部長)

栗原三郎 (監事)

大野正浩・深山 宏

(講師交渉・演壇・進

行・感謝状・司会など)

記念品 * 中三川孝幸 (常任幹事)

平山惟美・池田亘利

(記念品調達・名入れ

保管・配布など)

協賛金 * 池田亘利 (幹事長)

大野正浩・小宮 仁

(基準設定・口座開設

振込入金確認など)

広報 * 平山惟美 (副支部長)

前田昌則 (常任幹事)

伊藤 潤 (常任幹事)

(記念誌・WEBページ

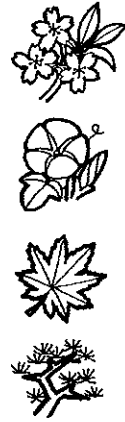
作成・写真撮影など)

会計 * 小宮 仁 (会計幹事)

(記念事業の収支決算

(表の*は、担当者内の責任者)

* 編集後記 *



● 記念誌制作の怖さは、過去のデータにとらわれて、過ぎ去った過去を懐かしみ、賞讃することだと思ふ。肩の力をぬいて、25年という歴史の重みを発見し、少しでも前を向いてもらえればとの思いで柱に企画した座談会でしたが、司会者の不手際でめざした目標に届かず空中分解してしまい、お詫び致します。

● 伊藤 潤委員の孤軍奮闘で進捗した編集工程の九割がた完成に近づいた段階で、最終校正をかねた編集会議に、病氣静養中の三宅正代委員がヒョッコリ元気な姿で出席してくれた。

校正作業の合間に生々しい闘病生活の話があつて、僅かな期間に『どん底』の世界を旅してきたことを知って、一段と大きくなつた三宅正代さんを見た気がしました。(編集長 平山惟美)

● 創立25周年式典の企画が出た段階から、これは記録として残す必要があると誰もが思いました。しかし『白門板橋』通常号ではどうしてもスペースが足りず、臨時増刊号にしなければと考へ7月29日の編集会議で記念誌としての内容を発表しました。

いち早く賛同してくださつたのが平山編集長で、平山さんは、今から15年前の創立10周年の際に『板橋区支部10年のあゆみ』という大著を編集し、当時の活気あふれる様子を表現しました。この25周年記念誌は、経験豊かな編集長の助言をもとに、半年がかりで編集した力作です。

将来、5年あるいは10年後に、これらの記念誌を読んだ後輩の方々が、私達の考えを少しでも継いでくだされば、編集者にとつて、それに勝る喜びはありません。(編集委員 伊藤 潤)

『白門板橋』第41号

増刊号

【創立25周年記念誌】

編集スタッフ

編集長 平山惟美

編集委員 栗原三郎

伊藤 潤

池田亘利

大野正浩

三宅正代

中三川孝幸

(卒年順)

(発送責任者) 須田幸男

『白門板橋』(第41号・増刊号)

【創立25周年記念誌】

平成25年12月25日発行

編集人 平山惟美

発行人 石塚輝雄

発行所 東京都板橋区

大谷口一―三九―二

中央大学学生会

東京板橋区支部

印刷所 ㈱アオキ・オフィスサービス

さいたま市南区

白幡四―十一―十九

本誌掲載記事の無断転載を禁じます